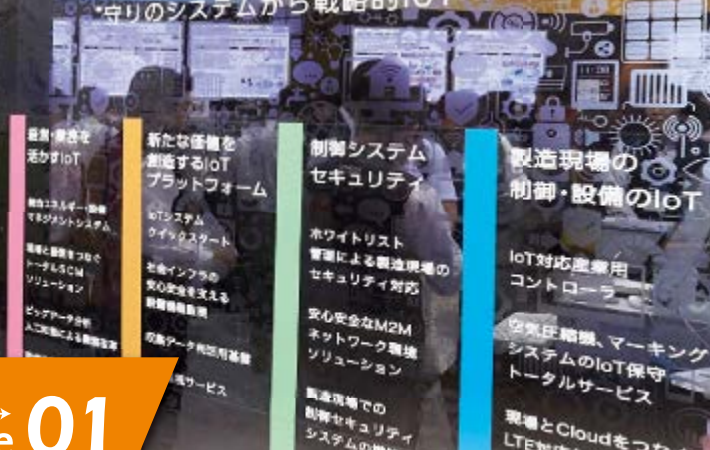




日立産機システム

IoT Show Case 01



つなげ! 人モノコト。つなげ! 未来。 見えてきた! 第4次産業革命 ~ IoT/M2M展 日立ブースレポート ~

日立グループは、IoT/M2M技術に特化した専門展示会「第5回IoT/M2M展」(5月11~13日)に出展しました。「IoT/M2M展」は日本や海外のIT企業が多数参画する見本市「Japan IT Week」のひとつで、全部で12のIT専門展から構成されています。「Japan IT Week」全体では149社が出展、3日間で89,285人の来場者数を数え、IoT/M2M展にも多くの方が来場されるなど、IoTへの関心の高さが伺えました。

■ 日立だからできるIoTのショーケース

今回の日立ブースは、まさに「日立流IoTのショーケース」となりました。「つなげ! 人モノコト。つなげ! 未来。」と題し、「新たな価値を創造するIoTプラットフォーム」「制御システムセキュリティ」「経営・業務を活かすIoT」「製造現場の制御・設備のIoT」の4つのコーナーで展開。モノづくりの現場を支えるところから、プラットフォームから吸い上げたデータを利活用するところまで、日立の総合力を生かした展示になりました。創業以来100年間、さまざまな業種でIT(情報技術)とOT(制御技術)を培ってきた、日立ならではの最新の製品・ソリューションの数々をあますことなく紹介しました。

日立産機システムからは、PLCベースIoT対応PACシステム「HXシリーズ」、IoT/M2M通信端末「CPTTransシリーズ」、空気圧縮機やインクジェットプリンタのクラウド監視サービス「ライフサイクルマネジメントサービス」、電力監視システム「H-NETシリーズ」を展示。



生産ラインと経営をつなぐ次世代システムを提案し、会場でデモンストレーションも行いました。

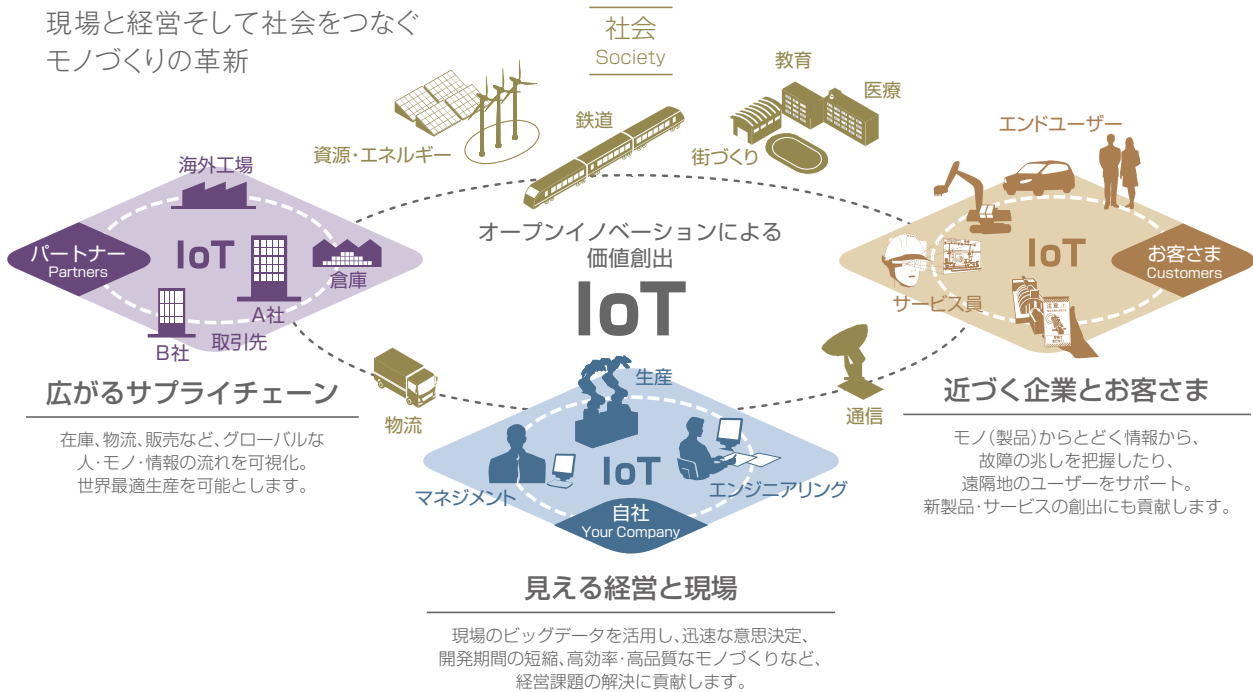
■ IoTへの日立のグローバルな取り組み

IoTに関しては、ドイツやアメリカの取り組みがすでに活発となっていて、2016年4月には日本政府も、「2020年までにセンサーで集めた現場のデータを工場や企業の枠を超えて共有・活用する先進システムを全国50カ所で生み出し」、さらに、「製造現場の強みを共有するドイツと国際標準化を進める」と表明しました。

そうした中、日立グループは、「インダストリー4.0」を進めるドイツの「ドイツ技術科学アカデミー(acatech)」、アメリカの「インダストリアル・インターネット・コンソーシアム」に加えて、国内では、内閣府の総合科学技術イノベーション会議をはじめ、ロボット革命イニシアティブなどの団体に参画し、社会課題の解決やイノベーション創出を推進しています。

日立が考える「第4次産業革命」

IoTで、経営と現場、企業と企業など、さまざまなステークホルダーのナレッジを結びつけ、連携させます。これによりお客さまの課題を解決。新しい価値やビジネスを創出し、社会や暮らしも変えていく。それが日立が考える第4次産業革命です。モノづくりの未来へ日立がお手伝いします。



日立ブースで聞いた、日立産機システムの製造現場のための新ソリューション

ライフサイクル マネージメント サービス

クラウドを利用した
監視システム
～迅速で適切な
保守・監視サービスをお客さまへ～

株式会社 日立産機システム
ソリューション・サービス統括本部
サービス事業部 企画部
鳥取 伸宏



「国内各地に点在している工場や事業所の空気圧縮機やインクジェットプリンタに通信装置をつなぎ、携帯網を通じて日立のプライベートクラウドにのせて、パソコンやタブレット端末から、いつでもどこからでも機械の稼働状態を遠隔監視できるシステムを構築しました。今後は空気圧縮機やインクジェットプリンタ以外の製品、他社の空気圧縮機やインクジェットプリンタ、さらに海外各地にも対応したいと考えています」

「お客さまの設備機器の維持管理を日立産機システムのネットワークで行っていくのが『ライフサイクルマネージメントサービス』です。お客さまのご要望に沿ったサービスメニューを選んでいただけます」

PLCベース IoT対応PACシステム HXシリーズ

高度なマシン制御と、
産業用ネットワークと
情報系ネットワークの
シームレスな
情報連携を実現

株式会社 日立産機システム
ドライブシステム事業部
企画部 制御企画Gr
藤田 実



「HXシリーズは、新しいタイプの産業用コントローラシステムです。情報の世界と産業の世界をつなぐインターフェースとして、インダストリー4.0の標準通信規格のOPC-UA(サーバ)を搭載しています。また、国際標準規格IEC61131-3準拠のソフトウェアPLC「CODESYS」の採用で、徹底したオープン化を図り、コントローラとしての基本機能であるシーケンス制御と共に、高度なモーション制御も1台のCPUで行う高機能化を実現しました」

「例えば遠隔監視・遠隔保守、監視ができることで実現できる、寿命予測や故障予知など新たな付加価値の創出、現場の業務効率化もユーザーメリットでしょう。日立産機システムはこういった新たな価値をお客さまに提供できることをめざしています」